

私の意見

三貴商事会長 川路 耕一



数学者である藤原正彦氏の『国家の品格』という本が、いま大変読まれています。昨年11月に出版されたこの本はすでに170万部を超えているベストセラーとなっていますが、氏はこの本の中で現在の日本人が誇りと自信を取り戻すためには、武士道精神の復興が不可欠であると強く訴えています。

武士道はもとと鎌倉武士の「戦いの掟」であり、戦場の現場におけるフェアプレイ精神をうたったものでした。戦国の争いが続くなか、教養を身につけられなかった当時の武士たちは、

江戸時代の徳川幕藩体制で商業が次第に発達していきまると、商取引自体は経済社会の中で一定の役割を果たすようになり、その担い手である商人は厳格な「土農工商」の身分制度のもとで何かと賤しめられ、正當に評価される

ことはありませんでした。そのため心ある商人は、自分たちの社会的な存在価値について自信が持てず、商売を行うにしてもどこに心の拠り所を置けばよいのかという不安を持っていました。そんな彼らに自信を持たせ「商人道」を説いたのが石田梅岩でした。

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

「武士道精神」と「商人道」

石田梅岩に学ぶ経営と商人道の原点

が、15歳の時に一旦郷里に帰ります。23歳の時に再び京都の別の商家に奉公に出ますが、忙しく奉公する身でありながら独学で神道や仏教、儒教の思想を学び、35歳の頃に小栗了雲という師に巡り会うことにより、学問を深め、「石門心学」を樹立するまでになります。

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

が、43歳の時に奉公を辞め、「聴講自由、席料無料」の看板を掲げて庶民を相手に私塾を開きます。初めは話を聴きに來る者もわずかですが、やがて京都の名のある商家の主人や番頭たちが彼の門をたたきようになり、梅岩の名は一躍有名になります。

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は商人が軽く扱われた江戸時代にあつて、「商人の得る利益は武士の禄と同じだ」とまで言い切り、彼らが得る利益の正当性を訴えました。それだけに彼は、決して不正な手段によって利益を得てはならないと厳しく戒めることを怠りませんでした。商人は常に「心のモノサシ」を持って私利私欲に走らず、人々のお役に立てるような仕事をしていかなさいとモラルの大切さを啓蒙し、厳しい倫理観と社会的責任感をもって商売することの大切さを説いたわけです。

日本は昨年、戦後60年の佳節を迎えましたが、この間私たちは「心を磨くこと」や「品性を高めること」など、返り、藤井会長のリーダーシップの下で当初の目的を達成したと評価した。

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

役割果たし次のステージへ

外国為替証拠金取引協会 活動報告会

日本初の外国為替証拠金取引の自主規制団体として2003年12月に設立された外国為替証拠金協会が3月17日、東京・丸の内(社)東京銀行協会・銀行倶楽部で活動報告会を開催した。

自主規制委員会、ヘルプデスク委員会を設けて、実質的な活動を開始したのは04年3月からのことで、約2年で当初目標の役割を果たし、3月31日付で解散、改正金融先物取引法(05年7月施行)下での次のステージに進むことになった。

当初は銀行、証券会社を含めた自主規制団体が目標でしたが、紆余曲折を経て証券会社1社、商品取引員19社、計20社の会員で発足しました。

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

改正金融先物取引につなぐ

冒頭の協会挨拶で、藤井和雄会長は、要旨次の通り述べた。

平成15年5月、「自主規制により、コンプライアンス

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と



藤井会長の挨拶・活動報告

証言・戦後先物史

東京ゴム取引所盛衰記(2)

東京ゴム取引所 元常務理事 間瀬 敏行

ゴム取引所は当業者が力を入れた取引所の設立はないといわれています。間瀬 確かに、発起人総代はゴム輸入商社大手、加商の石川昇一社長でした。しかし、言葉こそ違いますが、石田梅岩は今から約270年も前にこうしたこととを商人を相手に語り、お客様の満足や利益の正当性、倹約と正直など、資本の論理と倫理のバランスをしっかりと身につけて商売することの大切を説いていました。武士道精神が見直されているいま、江戸から明治、大正、昭和、平成と続いてきた日本の経営と商人道の原点を、もう一度、石田梅岩にまで立ち返って学ぶことも大切ではないかと思えます。

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と

梅岩は55歳の時に「都鄙問答」という有名な書物を著しますが、彼はこの書物の「商人の道を問うの段」の最後で、「且つ御法を守り、我が身を敬むべし。商人といふとも聖人の道を知らずらば、同じ金銀を設けながら不義の金銀を設け、子孫の絶ゆる理に至るべし、実に子孫を愛せば、道を学んで栄えることを致すべし」と



東京ゴム取引所の看板と場電

当初は会員44社がすべて当業者

話が変わります。間瀬さんは最初から取引所にいらしたのです。間瀬 いや、途中から入りました。林順次郎(後の日本ゴム輸入協会会長)という本ゴム輸入協会会長という事務局長がおられました。野村東印度殖産と扶桑商事の上司だった鈴木常務理事から「入らないか」との誘いの声がかかりました。最初は総務課長と経理課長の兼務でした。



東京ゴム取引所の看板と場電